

学年							小笠原村立小笠原中学校 家庭科 1年 年間指導計画			
小学校						中学校				
1	2	3	4	5	6	1	2	3		
月	単元名	自分の成長と家族・家庭生活 (5)				系統性の	A 家族・家庭生活(1)自分の成長と家族・家庭生活 小学校家庭科の学習をふまえて、3年間の学習の見通しをもたせるためのガイダンスとして扱い、また後の単元のA(2)・(3)の導入となる。			
4	5	学習活動				系統性の	「わかる」から「できる」授業への工夫 自分の生育家族以外のイメージをしにくい。			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間の家庭分野で学習する内容のガイダンスを行う。</li> <li>・家庭での活動を振り返り、家族・家庭の基本的な機能について理解する。</li> <li>・調べ学習を通して、家庭に関わるサービスが多あることを知る。</li> <li>・ロールプレイングを通して、家族には互いの立場や役割があり、協力することで家族関係をよりよくできることを理解する。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な家族の在り方を紹介し、ロールプレイングなどで、家族の気持ちや、自分の家族とは異なる家族の在り方を考えやすくする。</li> </ul>			
評価規準										
知識・技能	家族・家庭の基本的な機能について理解している。 家族の互いの立場や役割について理解している。				思考・表現・判断	家族との関わりについて問題を見いだして課題を設定し解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。		主体的に学習に取り組む態度	家族との関わりについて、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。	
	ロールプレイング・定期考査					レポート・定期考査			授業態度・提出物・自己評価	
月	単元名	中学生に必要な栄養を満たす食事 (5)				系統性の	B 衣食住の生活(1)食事の役割と中学生の栄養の特徴(2)中学生に必要な栄養を満たす食事 小学校で扱った五大栄養素を生かし、食事摂取基準や食品群別摂取量の目安の学習につなげていく。			
5	6	学習活動				系統性の	「わかる」から「できる」授業への工夫 栄養素の分類が、小学校の分類と異なる。			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・いくつかの生活習慣の事例から、健康の3要素に気付き、食事の役割に関心をもつ。</li> <li>・5大栄養素や6つの食品群の特徴を知り普通の食事に含まれている食品を分類する。</li> <li>・中学生が1日にとりたい食品と分量を知り、自分の生活において必要な栄養素を摂取しているか確かめる。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校で学習した栄養素の分類と中学校で学習する栄養素の分類を視覚教材等で比較・整理しながら理解させる。</li> </ul>			
評価規準										
知識・技能	生活の中で食事が果たす役割について理解している。 栄養素の種類と働きが分かり、食品の栄養的特質について理解している。				思考・表現・判断	自分の食生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。		主体的に学習に取り組む態度	自分の食生活について関心を持ち、中学生の自分に必要な栄養素を取り入れた食事を摂取しようとしている。	
	定期考査					プリント・定期考査			授業態度・提出物・自己評価	
月	単元名	さまざまな食品とその選択 (4)				系統性の	B 衣食住の生活 (3)日常食の調理と地域の食文化(ア)(イ) 小学校で学習した、食品の3つのグループ分けや栄養バランスの良い1食分の献立作りの学習を生かし、食品の選択・保存の仕方を考える。			
7	8	9	学習活動				系統性の	「わかる」から「できる」授業への工夫 加工食品の食品表示の種類が多く、理解が難しい場合がある。		
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・生鮮食品と加工食品の特徴を理解する。</li> <li>・目的に応じて生鮮食品と加工食品の選択・保存の仕方を理解する。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・加工食品の食品パッケージの実物を用いて、食品表示の掲載方法や、見るポイントを絞って理解させる。</li> </ul>		
評価規準										
知識・技能	日常生活に関連付け、用途に応じた加工食品の選択について理解しているとともに適切に選択できる。				思考・表現・判断	食品の選択について問題を見いだして課題を設定し解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。		主体的に学習に取り組む態度	食品の選択について、課題の解決に主体的に取り組んでいる。	
	小テスト・定期考査					ディスカッション・プリント・定期考査			授業態度・提出物・自己評価	

学年							小笠原村立小笠原中学校 家庭科 1年 年間指導計画				
小学校						中学校					
1	2	3	4	5	6	1				2	3
月	単元名	日常食の調理 (9)				系統性の	B 衣食住の生活 (3)日常食の調理と地域の食文化 (ウ) 小学校で学習した「ゆでる」「いためる」調理を生かし、小学校では扱わなかった生の肉や魚の調理の仕方を学習する。				
10 11	学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>調理における安全と衛生面について班で確認をする。</li> <li>肉、魚、野菜の調理をする。</li> <li>調理実習「ハンバーグと野菜の付け合せ」</li> <li>調理実習「白身魚のムニエルとミネストローネ」</li> </ul>						つまずきやすい	家庭での調理の頻度によって進度に差が出る。			
								工夫・手立て	班で調理実習を行い、互いにサポートしながら調理を行う。 実習で苦手とする部分については、家庭実践レポート等で調理をする機会を増やしていく。		
評価規準											
知識・技能	食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理や材料に適した加熱調理の仕方について、理解しているとともに、適切にできる。				思考・表現・判断	肉、魚、野菜の調理について問題を見いだして課題を設定し解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。		主体的に学習に取り組む態度	日常の1食分の調理について、課題の解決に主体的に取り組んでいる。		
	実技テスト・定期考査					レポート・定期考査			授業態度・提出物・自己評価		
月	単元名	地域の食文化 (3)				系統性の	B 衣食住の生活 (3)日常食の調理と地域の食文化 (エ) 小学校で学習した伝統的な米飯及び味噌汁の学習を発展させ、地域の食材を用いた和食の調理について学習する。				
12	学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域で生産される食材を知り、それを使ったメニューを1品考える。</li> <li>郷土料理と和食の調理を理解する。</li> </ul>						つまずきやすい	生徒の和食に対する興味関心があまりない。			
								工夫・手立て	調べ学習を通して食文化の由来にも触れたり、行事食すごろくなどで、学習への興味関心を高める。		
評価規準											
知識・技能	地域の食文化について理解している。				思考・表現・判断	地域の食文化や行事食をどのように受け継いでいくかを考え、自分の考えを表現することができる。		主体的に学習に取り組む態度	食文化や行事食について関心をもち、実生活に繋げようとしている。		
	定期考査					プレゼンテーション			授業態度・提出物・自己評価		
月	単元名	献立づくり (3)				系統性の	B 衣食住の生活 (3)日常食の調理と地域の食文化 (イ) 小学校で学習した1食分の献立作成を発展させ、中学校では1日分の献立作成を考えていく。				
1	学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事バランスガイドや6つの食品群を活用して、1日分の献立を作成する。</li> </ul>						つまずきやすい	1食の栄養バランスを考えつつ、1日3食の献立を考えることが難しい場合がある。			
								工夫・手立て	「エネルギーを一番消費しやすい、朝ごはんを多く摂り、就寝前の夜ご飯は朝ごはんよりも量を減らしているか」「食事バランスガイドと6つ食品群を参考にしているか」「自分の好きな食事を取り入れ等ポイントしているか」等のチェックシートを用意し、献立作りに役立てる。		
評価規準											
知識・技能	1日分の献立を作成する方法について理解している。				思考・表現・判断	中学生の1日分の献立について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどしている。		主体的に学習に取り組む態度	中学生の1日分の献立について、学習したことを実生活に繋げようとしている。		
	定期考査					プリント・定期考査			授業態度・提出物・自己評価		

学年							小笠原村立小笠原中学校 家庭科 1年 年間指導計画				
小学校						中学校					
1	2	3	4	5	6	1				2	3
月	単元名	持続可能な食生活 (2)				系単元の	C 消費生活・環境(3)消費生活・環境についての課題実践 小学校で学習した「環境に配慮した物の使い方」をもとに、「食生活」に焦点を当てた持続可能な社会について考えていく。				
2	学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫				
	・持続可能な食生活を送るための工夫を考える。						つまずきやすい	持続可能な食生活に向けた様々な取組への興味関心が低い。			
							工夫・手立て	視覚教材で様々な取組を紹介し、その取組がどのようなことに効果があるのかという見通しをもたせる。			
評価規準											
知識・技能	環境に配慮した食生活について、基本的な知識を理解している。				思考・表現・判断	社会や環境に配慮した食生活について考え、工夫している。		主体的に学習に取り組む態度	自立した消費者として、社会や環境について、課題の解決に主体的に取り組み、実践しようとしている。		
	定期考査					定期考査			授業態度・提出物・自己評価		
月	単元名	生活の課題と実践 (4)				系単元の	B 衣食住の生活(7)衣食住の生活についての課題と実践 小学校では「家族・家庭生活」についての課題と実践を行った。中学校では1年間のまとめとして学年末に単元を設定し、1年間の家庭科の学習をもとに課題設定、実践、評価を行う。				
2 3	学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫				
	・今まで学習してきた「家族・家庭生活」「衣食住の生活」「消費生活・環境」の中からほかの内容とも関連させて課題を設定して、課題解決に向けて計画を立てて実践する。 ・実践したことをまとめ、発表し、よりよい生活にするための新たな課題を見つけ次の実践に繋げる。						つまずきやすい	課題発見に時間がかかる。			
							工夫・手立て	どうしても課題発見が難しい場合には、事例をいくつか準備しておき、生徒の興味関心のあることから選択させるようにする。			
評価規準											
知識・技能					思考・表現・判断	生活に問題を見いだして課題を設定し、学習したことから解決策を構想し、実践した結果を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。		主体的に学習に取り組む態度	自分や家族の食生活について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。		
						レポート			授業観察・提出物・自己評価		